

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.639-640

間伐に必須なロープワークもトレーニングしています

【定例活動報告】

本会が活動する小原は江戸時代には宿場でしたが、その遥か以前の古代から集落があり、豊かな山の恵みによる人の生活が営まれてきた場所です。畑からは縄文時代の土器片が出土します。つい最近まで生活は様々な山の自然との深い関わりによって成り立ってきました。豊富な山の木は人の手によって切り出され、弁天島にあった栈橋から筏に組まれ、相模川を平塚に出て相模湾から江戸まで運ばれました。私の曾祖父は山の木を切って炭焼きを行い出荷していました。昭和40年代頃までは、観音堂周辺の傾斜地は一面の桑畑で、収穫した桑の葉で各家の蚕を育て、糸を作り、絹織物を作って出荷していました。古くは漆で年貢を納めていたという記録もある

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



ようです。

高度成長期に杉の植林が進み、昔とは植生もだいぶ変わりましたが、都会にない豊かな自然の恵みと心地良い山の空気や景色があります。その恵をいただきながら、楽しく持続可能なライフスタイルを実践できる場所です。

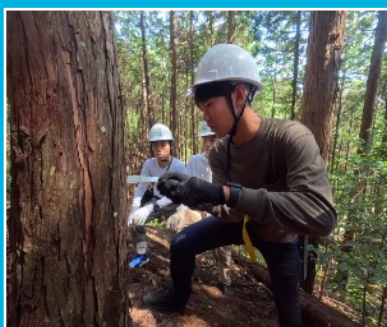
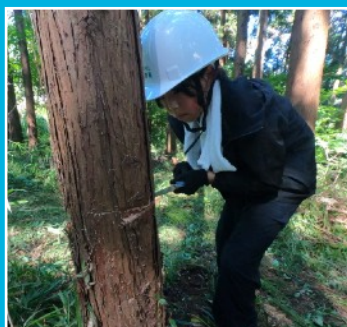
若い方の移住も大歓迎ですので、興味のある方は是非ご連絡ください。

永井 広紀（本会、理事）

【定例活動報告】 知足の森

今回初めて相模湖での林業体験に参加しました。ヒノキの伐採の体験をする中で、とりわけ間伐の技術について新たに学ぶことができました。私は大学のサークル活動を通してナラ枯れの伐採をしたことがありますが、樹高15メートルを超えるようなものは初めてだったので、無事に伐り終えることができた時の快感は忘れられません。一方で、かかり木や後処理を考慮しながら作業していくことの難しさ、また、樹種による硬度の違いや、その木の個性を鑑みてのこぎりを入れることの重要性を理解しました。私自身のこぎりの扱いなどまだまだ未熟な点が多いですが、これからも経験を積むとともに、今同学んだことをサークル活動にも活かしていきたいと考えています。

綾部 裕介（思惟の森の会 早稲田大学1年）



今日は、間伐と草刈りを行いました。間伐では、倒す木の選別はよかったのですが、狙いたいところに受け口が作れず、倒したい木が他の木に何回も引っかかってしまい、倒すのにとても苦労しました。受け口の方向と、のこぎりの角度の他、特に倒す方向を間違えたため、引っかかってしまったと考えました。だから、次は倒す方向を決める際には、切った後の木の運びやすさよりも倒しやすさを考えて木を切っていきたいと思います。午後は草刈りを行いました。紫陽花を残す形で草刈りを行ったのですが、草が自分の背丈より高いものもあり、生き物の生きる力を身をもって実感することができました。

また、涼しい気候となり、蜂や毒を持った蛇、蚊やマダニなどの危険な動物も活動が再び活発になり始めているので今後もこれらの生物に気をつけながら活動していきたいです。

武藤 俊裕（GTE LAB 中学2年男子）



桜井尚武の 森のコラム

「キツタ (*Hedera rhombea*)」



図1 ヒノキの幹を這い登るキツタ

ウコギ科の常緑藤本。落葉期の冬でも落葉しないので落葉するぶどう科のツタ（ナツツタ）と違うという意味を込めてフユツタ（冬蔦）ともいいます。葉は三角形あるいは五角形、質の厚い革質で鋸歯はありません。茎から多数の気根を出して寄りかかる樹木や壁などの工作物に着生し這い登ります（図1）。フジやツルウメモドキの様にとりついた樹木に巻き付いて幹を損傷することはほぼありません。キツタが這い登って樹木を害する（枯らす）という声を時々聞きますが、キツタが枯らすのではなく枯れ始めて葉が少なくなり這い登るキツタの葉の光環境が好転するのでキツタの成長がますます旺盛になる結果を見ているのだと思います。

蔓なので長さは着生した樹木の大きさに依りますが10m以上の高さにまで上るようですし茎の太さは10cm以上になると思います。両性花は秋の10～11月頃に散形花序につき果実は翌年春に熟します（図2、3）。

本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、台湾、中国の暖帯の低山から山地帯にかけて普遍的に分布し普通にみられる植生です。山裾よりも中腹から尾根筋に近い部分、ヒノキの立地とされる部分に多く見られます。世界規模では15種あるといい、そのうちの1つの西洋キツタが属名のヘデラという名で広く園芸植物として普及していて、垣根や並木の足元の植物として見られます。この日本種でないヘデラはキツタのような顕著な気根を出さないで日本のキツタと区別できます。移入種のキツタも蔓性植物の特性として攀じ登る本性は発揮しています。でもクズやスイカズラなどのような旺盛な繁茂はしないので、足元の目隠しなどにも便利な植生として使われています。

アメリカの北東部の私立大学の運動組織のアイビーリーグ(Ivy League)は有名ですが、これら大学の建物の壁に西洋キツタを這い登らせていることからこの名があるといえます。日本でも建物にこのキツタやナツツタ（ブドウ科の蔦）を這わせて独特の景観を作り出しているのがあって、内外の歴史や文化を考えるいい資料だと思います（図4）。

葉や茎は有毒ですから食べないようにという記述がみられます。果実は美味くはありませんが可食だという記述も見られます。ヒヨドリなどの冬の食料として重要という観察記録がありました。だとすれば、ネズミやリスなどの小哺乳類は勿論、クマなどの大型哺乳類の食餌としても重要ではないかと思いますので、この種も野生動物の利用に供するための気遣いをして欲しいと思います。



図2 キツタの花

20221016 小原相模湖



図3 キツタの果実

20230226 三浦富士神奈川



図4 Ivyを壁に這わせた建物の正面

20190427 キツタとナツツタが混生しています

桜井 尚武（本会、会員）

【活動報告】積み木イベント「積み木タワー王決定戦」行いました

今日は小金井市立本町小学校に行って60周年記念イベントにでました。イベント名は「積み木タワー王決定戦」です。成果は前回の絵本のイベントの反省を生かしていかにか子供たちに話を聞いてもらえるかを考えたことと、お菓子をつけて、人が来やすいようにしたこと。最初は人が全く来なくて焦りましたが、お菓子がもらえると言うことをアピールしたら、急に人が来始めたので、そこはよかった点だと思います。今後に生かしたいです。予定していた回数通り、時間通りに開催できてよかったです。反省は準備と片付けに少し時間がかかってしまったことです。特に準備ではシートが上手く敷けず難しかったです。積み木を最後に箱に入れるのにも時間がかかってしまいました。またイベントの機会があれば、今回、前回の反省を生かして頑張りたいです。インスタグラムでも動画で紹介していますのでぜひご覧ください。

天野 圭那 (GTE LAB 中学2年女子)



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金

